

## 議会報告「市民との意見交換会」記録

日 時：平成30年4月25日（水）10時00分～11時50分

場 所：市役所議会棟 議員協議会室

対象団体：加西病院サポーターの会 参加数9名

1. 開会・司会あいさつ
2. 議長あいさつ
3. 団体代表者あいさつ
4. 出席者自己紹介
5. 議会報告（平成30年3月定例会の審議概要）
  - ・配布される議会だよりは読んでいます。報告された病院予算関連の審議には感謝するが、病院経営の有効な手立ての提案があればお聞きしたい。
  - 地方公営企業法の全部適用で病院長以下、努力していただいている。病院事業管理者に全責任を押し付けるつもりはない。全国的に公立病院経営は厳しい。先進自治体病院を視察、地方独立法人化も検討。病院職員は公務員で人件費が高額な現状を弾力的に経営できるメリットがある。
6. 意見交換
  - ・サポーターの会の設立経過の説明あり。地域医療の継続が厳しい状況下で、医師不足は深刻な問題。高齢化が進む中で地域医療の弱体化は、移動手段を持たない高齢者や社会的弱者には影響が大きい。身近で安心して受診できる総合病院が安心な市民生活の基本であり、加西病院が地域の基幹病院として、市民の医療の要請に応じてもらうために『地域住民と共に歩む加西病院を応援する会』が呼び掛けて、『加西病院サポーターの会』を設立して活動を展開している。
  - ・住民の安心安全の確保の一環として、市民レベルで加西病院の経営安定を目指して、敢えて個人的なつながりで賛同者を募り活動を展開。救急時の急性期対応は絶対に必要、リハビリ等の対応の回復期病棟も重要、終末期の対応も必要と考えている。公立病院で神経科がある総合病院としての加西病院は極めて重要である。加西病院の重要性を市民が認識し自分たちの財産として、自分のため、家族のため、地域のためにその意識を高めてほしい。市議会議員OB会より資金提供があり感謝。市議会議員の皆さんにも加西病院への支援や応援をサポーターの会からもお願いする。
  - ・病院職員との交流、受診者や患者の目線での病院点検、正月勤務する医者への差し入れ、退職医師への感謝メッセージとお礼品の提供、介助ボランティアの取り組み、病院美化の取り組み、認知症患者への対応等、できることから頑張っている。不便な北向き玄関の問題や受付の問題等、『目からうろこ』、患者目線で気付くことが多々あり。改善すれば喜んでもらえる病院になる確信あり。加西病院が持つ機能を市民に理解してもらえれば、みんなが支える病院となる。そのために

病院に関する情報発信が大切である。そのために、市民代表である議員の皆さんに絶大なご支援とご協力を願いたい。

- ・個人的に入院でお世話になったが、近い病院で、なくてはならない医療機関である。急性期と慢性期の受け入れは病院経営として厳しく、乗り切れるか危惧するが、何とか頑張ってもらいたい。
- ・昨年のタウンミーティングで分かったが、加西病院の良さや経営状況も含めた情報が伝わっていない。これまで市民的理解がない状態であり、医師不足や財政的な経営状態の『危機的状況』の情報発信が必要である。
- ・病院に関する情報を知らない市民が多い。病院選びは個人や患者の自由だが、加西病院がなくなればどうなるか。患者や住民がたちまち困ることを市民が理解して支援しなければ病院は維持できない。いつまでも病院はあって当たり前では病院は維持できない。議員は、もっと踏み込んで対応や対策や協力を考えるべき。
- ・これまで、病院事務局に玄関や照明の改善を申し入れても、予算がないとの説明ばかり。今の人口で公立総合病院を維持することは大変と理解しているが、それを独立組織にすることはとんでもないこと。施設も設備も老朽化する中、駐車場は拡大され喜んだが、赤字が続く。職員数が多すぎる、なんでも即対応ができない、これらの点は病院のみならず行政全般に言えることで、議会のさらなるチェック機能を望みたい。
- ・できれば良い医師を、またサービスも向上させてほしい。それなりに医療機器は更新されても、使いこなす医師を招いた上で、急性期も回復期も受け入れできる病院体制を期待している。高度な医療体制を構築することにより、今の加西病院を受け継ぎ維持していくことで良いと考えている。
- ・サポーターの会で取り組むまで、知らないことが多い。これまで入院や診療でお世話になっていても気が付かない。例えば、薬局と玄関の往来の安全確保、車イスで来院する患者さんや認知症患者さんを受け入れる玄関の整備が必要など、現状をしっかりと確実に把握して課題解決に取り組むべき。『新しい物』を求めるより、病院組織としてのチームワークやチーム医療の良さや効果を追求すれば通じるものが見えてくるのではないか。新しい患者を求めることも必要ではあるが、受診した患者や治療した患者に評価してもらえる病院にすべき。喫茶コーナーや談話のスペースを工夫して確保すること、また医師にとってやりがいのある病院とすべきである。今が頑張りどころと認識して、サポーターの会の活動をしている。
- ・議員の皆さんの強い応援は伝わってくるが、具体的な取り組みはあるのか。
- ・病院の改善において、目標をどこに置くのか。黒字化を図るのなら、数値目標はあるのか。改善点をどう整理するのか。
- ・噂では悪い評判や評価を耳にしてきたが、自分が世話になったとき対応が良く安心できた。風評をどのように払拭するのか。玄関も狭くて不便で老朽化、イメージも悪い。

- ・地域が支え応援する病院は生き残っている。医師と病院を信頼し支持することが、病院を育て、医師を育て、頑張ってもらえる病院体制になる。先進的な他の病院の取り組みに学びつつ、また情報をいただきながら、加西病院のPRを図っていく。さらに院内の見学や病院の現状を確認して、市民へ情報発信したい。医療従事者との交流会等も実施して意思疎通も図って、古い病院であっても加西病院の良さを引き出していきたい。
- ・市制並びに老人会50周年で再認識したが、加西の潜在能力はすごい。まとめれば底力が発揮されることは間違いない。今後の支援をお願いしたい。
- 合唱団『きらり』に参加して病院の雰囲気づくりに協力している。3人の孫は加西病院で出産し世話になったが、それを宣伝している。施設の老朽化、暗い照明、受付スペース、薬局への通行の安全確保等、改善が必要。2年連続して補正予算で3億円ずつ病院会計に繰り入れしているが議会は議決している。公立病院を赤字だけを理由に廃止できない。病院も改善に取り組んでいる。公立総合病院を維持する方向で、専門医の紹介や病院のPRを図りたい。

#### 7. 閉会・班長あいさつ

- 病院勤務の経験に基づく専門的な助言、そして市民目線からの意見と要望のご教示に感謝。議会は病院経営には直接関わっていないが、予算決算を審議して議決承認していることから、経営面でも責任ある立場であり、今後も市民代表としての立場でしっかりと審議していく。